

中澤省一郎のSS経営メールマガジン No.20

(配信は不定期です。できる限り月1回以上は配信します)

第1部 東燃ゼネラルは予想通り、民族系元売に衣替えし、格付けは下がりました。

6月1日にTGがEMGMの99%持分を取得し「本当に民族系になった」ようです。

今までのTGは、EMグループの連結法人でしたから、EMの規則等が全て適用されてました。大きな違いを列挙しましょう。

●完全先決め（出荷前に価格が決定している）

⇒ 原則先決め、後決めも可（業転商社さんへの値決めも大きく変わった可能性があります）
理由：商慣行＋収益認識基準の違い

●クレジットカードの扱い

⇒ 代理店・特約店は、クレジットの残高を担保に見られるようになると思います。

●精製・小売軽視 ⇒ 精製・小売重視へ

●投資基準の大幅引下 ⇒ 小売への投資の再開

(代理店・特約店への株式投資、社有SSへの投資を含めて)

●サービスマインの縦割り ⇒ 横割へ

これらを勘案すると、明らかなのは（短期的には）「収益力の大幅な低下」です。

+年額150億円以上の営業権の償却負担です。

TGの各付けもAAA（-）からAA（フラット）へ、2段階格下げになってます。

<TG株290万株の行方（5月28日売却）>ですが、取得した第三者が私には、全くわかりません。誰が買ったのかは、全くわからないのですが、形式第三者、実質内部者（例えば、社内持株会等）である可能性が極めて高いと感じています。真正正銘の第三者は、「株価の値下がりリスク」で買えなかったと考えられます。

売却すると公言している1億株は誰が何時買うのでしょうか？
買い手によっては「石油業界の地図」が一変し業界再編へ進みます。

第2部 石油化学も能力削減・再編へ

10日（日）に三菱ケミカルが、エチレン設備（ナフサクラッカー）の設備廃棄を公表しました。

エチレン設備は約30%過剰と言われておりましたが、11年間設備廃棄はせず、11年ぶりの廃棄です。

エチレンの原料はナフサ≒ガソリンです。トッパーから出て、石油化学で使用するものをナフサといい、自動車用燃料にするものをガソリンというと考えてください。

エチレンは、ナフサから作る方法と、天然ガスから作る方法があり、シェールガス革命で天然ガス価格が劇的に下がったアメリカ、天然ガスが豊富な中東の競争力が強く、日本のエチレンの国際競争力は無くなっていると考えられます。エチレン及びその製品の輸入急増が予想され、更なる設備廃棄⇔業界再編が

必至です。

石油化学と石油精製は、一体的に運営すると非常に効率的な運営が可能になりますので、今後、石油精製と石油化学が一体となる方向で業界再編が起こる可能性があります。

TGの今の代表取締役副社長は、昨年3月に社外取締役に就任して、EMからのTG株の取得に関して、主導的な役割を果たしましたが、この方は、三菱化学（今の三菱ケミカル）の副社長であった方です。

石油業界も石油化学業界も、三菱ケミカルが深く関与した業界再編です。単なる偶然でしょうか？

JXは、三菱グループの一員です。第一部で言及したTG株1億株の売却先と併せて、注意深く見守る必要があります。

第3部 本日、個別相談会の広告が燃料油脂の1面に掲載されています。

ご自身の会社の実態を正確に把握出来ている方は少なく

(1) 過度に悲観的になっている方

(2) 過度に楽観的になっている方

が多く見受けられます。

「まだ間に合う」のに過度に悲観的になりすぎて、「手遅れ」になることは避けてください。

「今なら何とかなる」のに過度に楽観的に考え、「手遅れ」になることは避けてください。

「もう手遅れだ」と思っている、法的・制度的にも色々手当てされています。

担保に入っている、個人資産が残っていれば、なんとかなる可能性は強いです。

●金融円滑化法は来年の平成25年3月限りで、その後は延長しないことが決定しています。

●現在の会社法では可能な《存続させる会社と存続させない会社への会社分割》が大幅に制限される会社法の改正が検討されています。

●各都道府県の再生協議会の活用も可能です。

「相談するのは一時の恥」「相談しないのは一生の恥」になります。

《個別相談会》

●日時： 7月10日（火）10:00~18:30

7月11日（水）10:00~18:30

●テーマ： ①SSの経営改善・再建

②SSの事業承継対策

●相談料： 50分 10,000円

●希望時間帯に○を： 10日 午前【 】午後【 】
11日 午前【 】午後【 】

●お名前【 】

●会社名【 】

●所在地【 】

●電話【 】 ●FAX【 】

FAXでのお申し込みは： 03-3531-3656